

千代鈴連覇 綱に

紙相撲新聞

第157回本場所
十日目～千秋楽号

編集・発行
日本紙相撲協会

両横綱休場の中、場所を支えて連続優勝 場所後の理事会で第二十六代横綱に推挙

〔第一百五十七回本場所十日～千秋楽〕

今年最後となる第157回本場所は12月10日に十日目と千秋楽の取組が行われ、大関千代鈴が10勝1敗で優勝して連覇を果たした。

大関で2場所続けて10勝を挙げて連続優勝を飾り、千秋楽打ち出し後に開催された理事会にて満場一致で横綱に推挙された。

ほとんど負け知らずで番付を駆け上がり、「末は横綱」と言われていた大器が、23歳にして第26代横綱に昇

進することが決まった。ただ、先場所三日目から続いていた連勝は十日目に土がつき、惜しくも18連勝で止まった。

三賞は、対横綱7連勝と記録を更新し、今場所も2横綱を倒した関脇鹿富士が4回目の殊勲賞受賞、敢闘賞は綱乃花と西神門が受賞、技能賞は小結鬼ヶ嶽の受賞となった。

千秋楽には、千秋楽参加が恒例となっている霧ヶ浜親方が北海道から、また、仮設でない国技館での本場所観戦が初めてとなる住之江親方が大阪から参加した。

千代鈴は隙のない相撲で初日から9連勝と、優勝争いの先頭に立ち、後続との星の差を2つとして十日目に勝てば優勝が決まる。周囲からは「今場所の千代鈴に死角は見当たらず、優勝はま



↑千秋楽、大神楽が敗れ優勝を決めていた千代鈴だが、佐賀海を速攻で寄り切って2場所連続、三度目の優勝に花を添えた。



↑朝日松理事長より賜杯を受ける千代鈴。悲願の横綱誕生に感無量の春日根親方の涙が光った。

「いやあ、参りましたね。親方が前に飲んだくれたのが良くなかった！と春日根親方は反省しきり。相撲を取るのは千代鈴だけに、親方の失態はあまり関係ないと思われが、優勝は確実と確信していただけに春日根親方もわかに不安げな表情に変わっていた。

春日根親方は優勝と横綱昇進の前祝いとばかりに、友砂親方と大阪から久前日たらふく飲んだとのことで当日遅刻の大失態。それが災いしたのか、十日目に平幕の鉄甲相切りにまさかの寄り切りで黒星を喫してしま



千代鈴●(寄り切り)○鉄 甲

新関脇鹿富士は先場所に続き、今場所も両横綱を破るなど力強い相撲をみせた。鹿賀乃戸親方としては何とか8番勝って大関への布石としたかったところだが、十日目に苦手の出羽翼に勝つたものの、千秋楽に新鋭西神門に敗れて7勝に終わったのは残念な結果だったよう。しかし、大関が大関昇進の口も出てこようかという状況になってきた。



鹿富士○(寄り切り)●出羽翼

大神楽は優勝とはならなかったものの、千秋楽まで千代鈴との優勝争いを演じ、途中休場となった若ノ嶋と春ノ翔の両横綱の穴を埋める活躍を見せた。千代鈴に先を越されたが「自分も！」との思いは強いらしく、来場所以降の相撲が期待される。



大神楽○(寄り切り)●若 巨

春日根親方も優勝が決まって一安心。緊張で強ばっていた表情が一気に緩み満面の笑みを浮かべた。千秋楽結びの一番も左差しからの万全の寄りで佐賀ノ海を下し、有終の美を飾った。



綱乃花○(上手投げ)●大神楽

優勝	殊勲賞	敢闘賞	技能賞	十両	三段	序二段	序口
千代鈴	鹿富士	綱乃花	西神門	御嶽内	徳川	綱川	柳川
十勝一敗 (3)	七勝四敗 (4)	八勝三敗 (2)	八勝三敗 (2)	八勝三敗 (初)	五勝一敗 (初)	五勝一敗 (初)	四勝一敗 (初)

それまでモニター観戦していた春日根親方も間近で取組を見守ると、後半戦から直に観戦。

しかし、結び前の一番で、勝てば敢闘賞の綱乃花が賞獲りに発奮してか上手投げで2敗を追う上投げで電光石火の時点で千代鈴の優勝が決まった。その瞬間、親方衆が駆け寄り、春日根親方に「優勝おめでとう！」との言葉とグータッチで祝福した。